



熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム
令和元年度事業報告・決算報告・監査報告資料

日時：令和2年12月22日(火)

会場：メール会議

目 次

I. 事業期間	-----	1
II. 事業概要	-----	1
III. 事業実施に関する事項	-----	1
1. 活動内容	-----	1
2. 情報共有と発信（広報活動）	-----	4
3. PT支援	-----	5
4. 会員増への取り組み	-----	5
5. 総会・企画運営委員会の実施	-----	5
6. 決算報告及び監査報告	-----	6
IV. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり 及び再生策検討プロジェクトチーム報告について	-----	8
V. 活動PR戦略プロジェクトチーム（PRPT）報告について	-----	9

I. 事業期間

令和元年（2019）6月1日～令和2年（2020）5月31日

II. 事業概要

令和元年8月19日には、「八代海再生へのシナリオ」刊行を機に参加者146名のシンポジウムをNPO法人みらい有明不知火、熊本県測量設計コンサルタンツ協会、熊本県港湾建設協会、熊本県漁港建設協会と共催した。令和元年10月3日熊本県庁にて令和元年度通常総会を開催した。参加者は28名で、議題の採択、議長及び監事2名並びに議事録署名人2名の選出が承認された。また、シンポジウムのパネルディスカッションにてとりまとめた内容を《宣言：さらなる一歩に向けて》（案）》に取りまとめた内容が滝川企画運営委員長から説明された。

宮城県塩竈市で令和元年11月に開催された「全国アマモサミット2019 in みやぎ」において、上久保PT長によって本フォーラムのパンフレットが配布された。

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム会員数は、個人会員：43名、団体会員：30団体（令和2年5月31日現在）で官民の参加が得られている。

III. 事業実施に関する事項

1. 活動内容

プロジェクトチームの活動と併行して、シンポジウム開催に向けた準備会1回、活動シナリオ作成WG会議が2回開催され、シンポジウムを開催した。また、総会に向けた会議としてシナリオ作成WG会議が1回開催され、令和元年10月3日に通常総会が開催された。その後、令和2年7月1日に令和元年度第1回企画運営委員会が開催された。

◆令和元年度 シンポジウム：熊本県沿岸域再生の現状と展望開催準備会

日時：令和元年7月10日(水)13:30~16:00

場所：NPO法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）

参加人数：5名

内容：①シンポジウム開始時間及び進行時間配分

②役割分担について

③その他

◆令和元年度第1回活動シナリオ作成WG会議開催

日時：令和元年7月29日（月）14:00~16:00

場所：NPO法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）

参加者：7名

内容：

①シンポジウム開催（案）について

②入会者及び賛助金納入について活動の現状報告と今後の取り組み

◆令和元年度第2回活動シナリオ作成WG会議開催

日時：令和元年8月7日（月）14:00~16:00

場所：NPO法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）

参加者：8名

内容：

- ①シンポジウム開催（案）について
- ②予算書修正について
- ③入会者及び賛助金納入について

◆シンポジウムの開催

「八代海再生へのシナリオ」刊行を機に、以下のシンポジウムを企画運営委員会で開催しました。

日時：令和元年8月19日（月）12:30~17:00

場所：熊本県立劇場大会議室

参加者：146名

テーマ：熊本県沿岸域再生の現状と展望

～研究集大成「八代海再生へのシナリオ」刊行の報告と討論会～

目的：長年の研究・調査成果に基づき取り纏めた「八代海再生へのシナリオ」の報告とともに、各種団体や行政機関等による沿岸域再生の取り組みを紹介し、熊本県沿岸域再生の現状の理解と今後への実効性のある方策を議論する。

共催：熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム/NPO法人みらい有明不知火/熊本県測量設計コンサルタント協会/熊本県港湾建設協会/熊本県漁港建設協会

実行委員会：熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム企画運営委員会

内容：

1部 刊行報告

「八代海再生へのシナリオ」刊行報告

2部 討論会：パネルディスカッション『熊本県沿岸域再生の現状と展望』

第1セッション 「海の再生への取り組事例」

『環境省の役割』

『八代海及び有明海の再生に向けた熊本県の取り組み』

『海洋環境整備船「海輝」「海煌」の取り組みについて』

『球磨川河口域・汽水域におけるヨシ原の再生について』

○有明海関係

『荒尾干潟の魅力を広げていくための取組』

『カニの胃袋から海洋プラスチックゴミの問題を考える』

○八代海関係

『アマモ場造成に向けた農業気象学の役割～芦北高校林業科アマモ班との連携で始まる取組例』

『干潟生物調査を通じた環境教育と地域興し』

第2セッション 「パネルディスカッション」

コーディネーター

「シンポジウムのねらいと海の再生について」

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム顧問 古川恵太氏

パネリスト：滝川企画運営委員長・国土交通省熊本港湾空港整備事務所・環境省九州地方環境事務所・国土交通省八代河川国道事務所・熊本県環境立県推進課

○八代海関係

(株) アグリライト研究所代表取締役園山 芳充氏・ひのくにベントス研究所長森 敬介氏

○有明海関係

熊本県立岱志高等学校理科部・荒尾市環境保全課

◆令和元年度第3回活動シナリオ作成WG会議開催

日時：令和元年9月9日（月）14:00~16:00

場所：NPO 法人みらい有明不知火事務所（熊本大学内）

参加者：7名

内容：

- ①通常総会開催について
- ②シンポジウム宣言文を受けた活動の方向性・方針について
- ③PTの検討状況について

◆令和元年度熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム通常総会

日時：令和元年10月3日(木)14:00~16:00

場所：熊本県庁本館8階801会議室

参加者：28名

内容：＜審議事項＞

- ①議題の採択
 - ②議長及び監事並びに議事録署名人の選任
- ＜報告事項＞
- ①平成30年度活動及び決算並びに監査報告
 - ②令和元年度事業計画（事業計画・予算）
 - ③プロジェクトチーム（PT）活動状況について
 - ④意見交換
- ＜その他＞
- ①その他

◆第1回企画運営委員会会議

日時：令和2年7月15日(水)

場所：メール会議（※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）

内容：＜審議事項＞

①令和元年度 事業報告・決算報告・監査報告

②令和2年度 事業計画（案）・予算（案）

③令和2年度 通常総会議題（案）

＜報告事項＞

①PT 活動状況報告

②ホームページの公開状況

＜その他＞

その他

2. 情報共有と発信（広報活動）

2.1 ホームページの運用

(1)ホームページの運用と更新

フォーラム活動経過を最新情報として順次掲載するとともに、企画運営委員会の議事概要、フォーラムの活動経過、PT 活動経過等の情報掲示

メインメニュー構成として次の内容を掲載している。新たに「八代海再生へのシナリオ」の紹介ページを設け、シナリオ配布の窓口としている。

[ニュース・活動内容・活動報告・入会案内・賛助金のお願い・お問い合わせ・活動紹介コーナー・八代海再生へのシナリオ]

(2)他団体紹介 HP 状況

活動 PR 戦略プロジェクトチームと連携して地域で活動している 5 団体を掲載中。

※コロナウイルスの影響でイベントスケジュールが更新できていないため、確定次第次期スケジュール版を変更する予定

記掲載団体：NPO 法人みらい有明不知火・熊本大学市民講座・やつしる里海ネット・天草海部・熊本漁港建設協会

2.2 情報発信

(1)熊本県沿岸域再生の現状と展望～研究集大成「八代海再生へのシナリオ」刊行～パンフレット作成して配布活動を継続

(2)アマモサミットへの参加

宮城県塩竈市で令和元年 11 月 9 日（土）から開催された「全国アマモサミット 2019 in みやぎ」において、上久保 PT 長によって、フォーラムの活動をアピールするためにリーフレットの配布を行った。

（上久保 PT 長・川岸 PT 長・西本事務局・岩井氏）

2.3 広報掲載実績

フォーラム活動に関する記事等が5件掲載された。

日 付	掲 載 媒 体	タ イ ト ル
令和元年7月	土木学会技術推進機構認定プログラム情報としてホームページで紹介	熊本県沿岸域再生の現状と展望~研究集大成「八代海再生へのシナリオ」刊行の報告と討論会~

3. PT 支援

本年度は、以下の2つのPTの活動を支援した。

3.1 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり及び再生策検討プロジェクトチーム

川岸 寛 PT長

シンポジウムにおいて「八代海再生へのシナリオ」の概要説明を行った。

また、有明海・八代海環境研究会「八代海再生へのシナリオ解説」について、説明会を含めて今後の展開に向けて検討を行った。(第1回検討会議開催令和元年12月13日)

3.2 活動PR戦略プロジェクトチーム

上久保 祐志 PT長

シンポジウム開催に向けてシナリオ作成WG会議及び事務局と連携した情報の発信を実施した。また、全国アマモサミット2019(宮城塩竈市)に参加し、本フォーラムのパンフレットを配布した。

4. 会員増への取り組み

企画運営委員22委員(6個人,16団体)および、企画運営委員会議オブザーバー3団体、で企画運営委員会を開催しています。これらの委員を含めて現時点では、個人会員:44名、団体会員:30団体(令和2年5月31日現在)となっています。さらに、フォーラム会員の募集を行い会員数の増加を目指します。

5. 総会・企画運営委員会の実施

企画運営委員会を前述のとおり令和2年7月の1回開催した。また、通常総会を、令和元年10月3日に開催し、審議事項の承認を得た。

6. 決算報告及び監査報告

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム
令和元年度事業会計報告書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	R元年度予算	R元年度決算	備 考
(1) 寄付金		0	
(2) 助成金	0	0	
(3) 賛助金	700,000	174,000	個人:8名 団体3団体
(4) 雑収入	0	5	利息等
(5) その他	150,000	82,484	NPOみらい有明不知火との共催費+会場キャンセル返還金
(A) 単年度収入合計	850,000	256,489	
(B) 前年度繰越金	1,430,654	1,430,654	
(C) 収入合計=(A)+(B)	2,280,654	1,687,143	

【支出の部】

科 目	R元年度予算	R元年度決算	備 考
(1) フォーラム総会費用	50,000	0	
(2) PT活動費	300,000	0	
(3) シンポジウム開催費	300,000	208,216	
(4) 事務局経費	200,000	141,894	
1) 事務局運営費	72,000	103,584	HP運営費(2年分)・事務用品・消耗品代・振込手数料 他
2) 旅費交通費	50,000	400	駐車場代
3) 通信費	20,000	0	
4) 印刷製本	50,000	37,910	封筒・消耗品等
5) 雑費	8,000	0	予備費等
(D) 単年度支出計	850,000	350,110	
(E) 単年度収支差額=(A)-(D)	0	-93,621	
(F) 次年度繰越額=(C)-(D)	1,430,654	1,337,033	

令和元年度熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

監査報告書

令和元年6月29日から令和2年5月31日までの令和元年度熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムに係る事業報告及び会計報告について監査を行いました。その結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役の監査の方法及びその内容

監査役は、事務局代表および筆頭会計から事業報告及び会計に関する管理の状況を聴取し、企画運営委員会及び事務局の業務執行状況と会計に関する重要な領収書等の収入を表す資料等を閲覧いたしました。また、会計報告書又はこれに関する資料を調査し、本会に係る書類（事業収支結果一覧表、領収書）等について検討いたしました。

2. 監査の結果

事業報告に関する書類を監査した結果、企画運営委員会及び事務局の業務は適正に執行されていることを確認いたしました。また、会計報告書に綴られた書類及び領収書は、本会の収支及び支出状況をすべて重要な点において適正に表示し管理されていることを認めます。

令和2年7月3日

監査役

城戸誠司

印省略

監査役

田代裕信

印省略

IV. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり

及び再生策検討プロジェクトチーム報告について ----

川岸 PT 長

今年度は、「八代海再生へのシナリオ」を活用して、住民、関係者への周知及び共通認識の形成を進めるために、「八代海再生へのシナリオ」を題材とした取り組みについて次の検討を行った。

- ① 全体を3部構成として、住民、関係者との共通認識の形成を図るものとする。具体的には以下の内容で進めていく予定である。
- ② 第1部は、「八代海はどんな海？」と題して、八代海の今昔、ほかの海との違い、八代海を囲う陸地と島、八代海は悪くなっている!?!、八代海の将来について、参加者と一緒に考えていく。
- ③ 第2部は、「八代海を取り戻すためにやること!」と題して、八代海で採れる魚介類、八代海の生物は今、生物を増やすためには、みんなが今すぐやれることは?、次の世代のためにやることについて、参加者と一緒に考えていく。
- ④ 第3部は、「八代海をいつまでも!」と題して、八代海を生活の中に、八代海との付き合い方、すぐ始めるためには、続けていくためにはについて、参加者と一緒に、住民、県・市・町及び国の機関がやることを決める。

V. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム（PRPT）報告について

上久保 PT 長

1. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム（PRPT）の役割

- （1）県民に有明海及び八代海の現状や課題の再認識を促し、フォーラムが目指す方向性や活動内容を広く周知するとともに、その理解並びに協力の推進を図る。
- （2）上記活動テーマにかかる情報、地域の情報など、関連する情報を幅広く収集する。
- （3）収集した情報は、各媒体による効果的手段によって、広く発信する。

2. PRPT のメンバー

- （1）PRPT の運営に必要なメンバーを組織し、効果的な発信手段を検討する。
- （2）関連情報を収集し、分析・整理し、保存するとともに、関係機関との交流を通じて情報の発信に努める。

3. 活動計画

（1）情報の収集と発信

・関連情報の積極的な収集に努めた。

- ①有明海・八代海の水質、地域資源、地域振興、防災などの関連情報
- ②沿岸地域における環境学習、イベントなどの情報
- ③ほかの閉鎖性海域における再生の取組事例など
- ④その他関連情報

・ホームページによる発信を計測して行った。

（熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム <http://www.kumamoto-forum.com/> 」

（2）プロモーション活動

- ①シンポジウム開催に向けてシナリオ作成 WG 会議及び事務局と連携した情報の発信を実施した。
- ②全国アマモサミット 2019（宮城塩竈市）に参加し、本フォーラムのパンフレットを配布した。